



日時：2017年10月21日(土) 天候：小雨

集合：川崎駅東口バスターミナル 8:45 「臨港バス川03 浮島：浮島バスターミナル行」
(京急線のガード下に位置)

コース：浮島バスターミナル下車→川崎エコ暮らしみらい館→<バス>川崎大師→土手沿いに六郷橋
→旧東海道→川崎駅 約5km 11,000歩(伊藤自宅含め13,000歩)

参加者：【神奈川】・佐藤伊・吉越・平嶋・神谷・戸田・平石・熊坂・高橋文・伊藤真・青松・熊島・佐藤繁
・中村年・山川・桑名・木村・村上 計17名 ・橘(ストレッチ指導)

【川崎】・佐藤静雄会長(総括責任者)・吉田き・相田(水泳クラブ)・佐藤好行(ランニング) 計4名

【新横浜】・高橋辰治会長・加藤・大房夫妻・藤本(後から参加) 計5名 合計27名

下見：佐藤静雄・高橋辰治

神奈川ウォーキング協議会結成準備会(神奈川・川崎・新横浜)で企画された第1回目のウォーキング交流会。集合場所が川崎駅で近く、「かわさきエコ暮らし未来館」は初体験なので参加しました。事前に調べてみますと、子供向きですが、屋上からは羽田空港も見られるので写真を期待しておりましたが、小雨の為、屋上には上がれず窓越しで飛行機発着の良い写真は撮れませんでした。ここで昼食前、橘さんのストレッチ指導が非常に良く今後自宅で試みたいと思います。ポイントは姿勢が大事で、頭を動かさず約20秒保つと効果抜群。

川崎大師は近くに住む孫の七五三を含め数回お参りしておりますが、旧「東海道かわさき宿交流館」は初体験で、旅姿の写真を神谷さんと撮って戴きました。KWCでも田村さんが企画された「東海道五十三次」を思い出しました。雨でウォーキングの写真はあまり撮れませんでした。川崎大師から多摩川土手沿いを六郷橋までカラフルカップ雨中行軍しましたので、御覧下さい。

【地図】 バス川崎駅→浮島バスターミナル→川崎大師



【川崎エコ暮らしみらい館】 2011年8月オープン（案内人の菊池さんが説明された内容がHPにあり引用）

かわさきエコ暮らし未来館に隣接する展望スペースから、浮島太陽光発電所を見学。

まわりに高い建物がなく、羽田空港にも近いので、飛行機の離発着の様子や東京湾も見渡せて、見晴らしは最高！一見、普通の土地と全く変わらないように見えますが、もともとこの土地は、川崎市で発生したゴミの焼却灰を埋め立てた工業地帯。焼却灰を埋めた土地は、法律で20年間は建物が建てられないと決められており、その20年の間、この土地を有効活用しようということで作られたのが、浮島太陽光発電所なのです。

浮島太陽光発電所は、川崎市が保有する11ヘクタール（東京ドーム2.3個分）の土地に、東京電力が約38000枚の太陽光パネルを設置して管理・運営しているもので、年間発電電力量は一般家庭約2100軒分の年間使用電力量に相当する約740万kWhとされています。浮島太陽光発電所では、埋立地という土地柄を考慮した工夫や、発電コストを下げるための様々な工夫がされています。

通常、太陽光発電において、パネルは30°の傾斜で設置されるのが一般的と言われていますが、ここでの設置角度は10°。この土地で30°で設置すると、影ができやすくなり発電の効率が悪くなってしまうこと、また、海風の影響を受けやすいため、緩やかな角度で設置しているそうです。

また、傾斜をつけて設置することで、パネルについたホコリや汚れを、雨や風が落としてくれるので、人の手を使って掃除をするという手間とコストも省けるそうです。さらに、埋立地であるこの土地は、今後20年の間に地盤沈下を起こす可能性があると言われています。もし地盤沈下が起きても、沈んだ箇所だけの修復ですむように、土台部分をなるべく細かいブロックに分けて設置するといった工夫もされていました。その他、発電の妨げになる雑草を生えにくくするため、スギやヒノキの樹皮を発酵させて熱処理したものを焼却灰に混ぜているそうです。太陽光発電は、資源が枯渇する心配もなく、CO2を排出しないクリーンなエネルギーなので、今注目を集めています。しかし、まとまった発電量を得るには、条件を満たす広大な面積の土地が必要で、たとえば原子力発電1基分の発電量（100万kw）を太陽光発電で賄うには、山手線の内側と同じ広さの土地が必要といわれています。また、季節や天候、時間帯によって大きく発電量が左右されることから、安定した電力供給が難しく、まだ多くの課題が残されています。今後のエネルギーは、ひとつの発電方法に頼るのではなく、クリーンな太陽光発電の導入量を増やす努力をしながら、様々な発電方式の特性を活かし、バランス良く組み合わせることが大切ですね。

【浮島バスターミナル】川崎駅8：45発に乗り「浮島バスターミナル」9：20到着。後続組を待つ。



埋め立て地横の道を、傘を差しながら歩く



「川崎エコ暮らしみらい館」正門 9：37到着



「川崎エコ暮らしみらい館」入口



3Fから眼下の入口と正面工場地帯を見る（ガラス越し撮影）



吉越さんと佐藤静会長（川崎）司会

ストレッチ橘さん

川崎グループ（佐藤静会長他3人）紹介



新横浜紹介、高橋辰会長他3名



「1F フロアー床の航空写真」

神奈川紹介、高橋文副会長他16名



「かわさきエコ暮らしみらい館」



精巧な航空写真で我がマンションも見ました。多摩川とゴルフ場

案内役の菊池さん床図面で説明



5 F 窓越しに見る太陽光発電

羽田空港着陸日本航空機



「風の塔」がうっすらと見える。

HPから引用した「風の塔」を説明文で学習



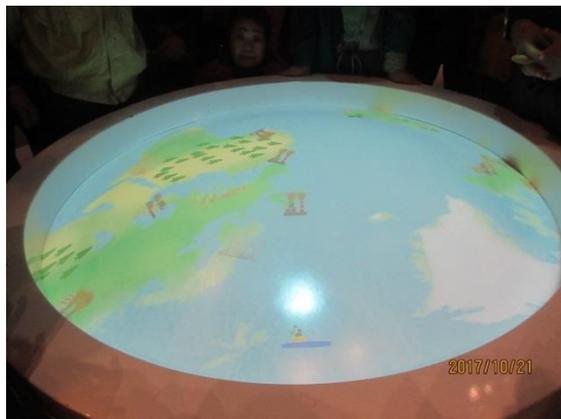
座標	北緯35度29分29秒 東経139度50分5秒
面積	0.0314 km ²
海岸線長	0.628 km
最高標高	90 m
所在海域	東京湾
所属国・地域	日本

風の塔発電 12度傾斜した
大小 2本の円筒形の塔で
構成された換気塔で、90m
の大塔はアクアトンネルへ
外気の給気、75mの小塔
はトンネルからの排気の役
割を果たす^[9]。東京湾上は
年間を通じて風向きは南
北方向であることがほとん
どで、2本の塔の間を風が
抜けることでベルヌーイの

定理により効率的な換気ができる^[10]。大塔は現地で鉄骨が組まれたが、小塔は下部 1800トン、上部 600トンに分けて陸上で施工された^[11]。塔のデザイン決定には平山郁夫と澄川喜一が携わり^[12]、羽田空港を発着する旅客機からの景観や、船舶からの視認性を高めるため^[13]群青色と白色の幅 10m の横ストライプのデザインが採用された。表面は幅 3.3m × 高さ 5m のプレキャストコンクリートパネルで、150mm 角のタイルで仕上げられている^[14]。塗装には、耐腐食性に優れたフッ素樹脂塗料およびエポキシ樹脂塗料が使用されている^[15]。

地球温暖化チャレンジゾーン 地球をなでると危機が現れる

風力発電の羽根



子供達に体験学習させると日本夫未来に役立つ。

浮島太陽光発電所（左）と扇島太陽光発電所（右）実物パネル



浮島太陽光発電所・パネル(実物)		扇島↓
事業者	川崎市と東京電力(株) (共同事業)	川崎市と東京電力(株) (共同事業)
設置場所	川崎市川崎区浮島町	川崎市川崎区扇島
運転開始	2011年8月	2011年12月
最大出力	7,000kW	13,000kW
推定発電電力量	約740万kWh/年	約1,370万kWh/年
CO ₂ 削減量	約3,100t/年	約5,800t/年
パネルの設置面積	約10ha	約20ha
設置枚数	37,926枚	63,792枚
メーカー	シャープ(株)	京セラ(株)
種類	単結晶	多結晶

スチームネット



川崎スチームネット (一部実物)	
事業者	川崎スチームネット(株)
設置場所	川崎市川崎区千鳥町
運転開始	2010年2月
概要	川崎火力発電所1500℃級コンバインドサイクル発電(MACC)で使用した蒸気の一部を、隣接する千鳥・夜光地区コンビナート10社に供給する蒸気供給事業
特徴	CO ₂ 削減効果は約2.5万t/年 ※各社のボイラを使用して蒸気を作る 従来工程と比較 蒸気配管は総延長6.5km

物の再生 タッチすると出てくる



橘コーチ指導によるストレッチ11：45～12：15 確実にピリッと効きます！



橘コーチ履歴

- ・2014年ランナーズマイスター初級・中級取得。
- 30kのペーサー、大会運営サポーター、大会計測スタッフ(チップ)
- 市民ランナークラブ内のサポーター

ポイント：姿勢と約20秒位保つこと。KWCでも取り入みましょう！ ここで昼食。(KWC佐藤繁さん帰宅)



「川崎大師」 13:40～雨で参拝者少ない。



集合写真・・・雨具コンテストになりました・・・



日曜日参拝は少なく、七五三祝も一組見ました

「トントン商店街」も少なく、我がチームの群れ目立つ



多摩川に向かいます

右岸堤防雨中行軍

河港水門が見えてきました



「多摩川河港水門」 味の素の広大な敷地の傍にある



多摩川の河港水門は、運河・港湾計画の一環として昭和3年3月に完成しました。タワー頭頂部には、籠に溢れんばかりに盛られた、当時の川崎の名産であった梨や葡萄、桃をあしらった巨大な飾りが施されています。

大運河計画は社会情勢の変化から昭和18年3月に廃止されましたが、河港水門は現在でも、主として千葉方面からの砂利の陸揚げ施設として、1日数隻の砂利運搬船の出入りに利用されています。また、この河港水門は平成10年に、国の登録有形文化財と



雨中行軍で頑張ります。赤は目立ちます。 六郷橋が見えてきました (現在は箱根駅伝でランナーが走ります)



「六郷の渡し」(HPから引用)



多摩川の旧東海道に慶長5年(1600)徳川家康が六郷大橋(長さ120間)を架けた記録は広く知られている。多摩川における最初の架橋である。この橋は、千住大橋、両国橋とともに江戸の三大橋とされた。この年は「関が原の戦い」が行われた年(10月21日)でもあり、家康率いる東軍が六郷大橋を渡橋した。

当時はまだ河川堤防が無く、架けられた橋は洪水時に水没する「もぐり橋」とな



▲東海道五十三次「川崎」

ったため、記録によると多摩川の洪水によって度々流失している。度重なる流失のため1688年の洪水による流失を契機として、それ以降、羽田村の渡船が用いられるようになった。これが、江戸時代から明治へ続く「六郷の渡し」の始まりである。「六郷の渡船場」は、旧東海道における六郷領の八幡塚村と川崎宿の間を結ぶ重要な拠点となり、「六郷の渡し」は重要な交通手段となった。これを背景にして六郷領は活気を増していくことになる。

明治に入ってから明治7年(1874)に鈴木左内による六郷橋(左内橋)が架けられ、「六郷の渡し」はこの時をもって永く活躍し続けてきた役割を終えて六郷から渡し船の姿が消すことになった。しかし、左内橋は木製の橋で規模が小さく、もぐり橋であったため、4年後の1878年に多摩川の洪水により流失してしまう。さらに六郷架橋組合が明治16年(1883)に、また、大正2年(1913)にも橋が架けられたがいずれも洪水によって流失したため、橋がないときには渡船が復活し使用されていた。大正2年架橋の親柱は、六郷神社に保存されている。

こうした度々発生する多摩川の災害を契機として、内務省による直轄事業の多摩川改修工事が大正7年度(1918)から昭和8年度までの16カ年継続事業として起工された。これに伴い大正14年(1925)にそれまでの長い間の念願だった洪水時に水没しない、堤防間を結ぶ六郷橋が完成した。その後、この橋は第一京浜国道(国道15号)のモータリゼーションの増大による拡張整備などに伴って架け替えられることになり、現在の六郷橋は昭和54年(1979)に工事を始め、昭和62年(1987)に完成している。

六郷橋は、現在も旧東海道を結ぶ東京都と神奈川県の間境に位置し、東海道を走る新春の風物詩である箱根駅伝のルートになっており、実況中継のTV放映により六郷橋は全国的にその名が知られている。

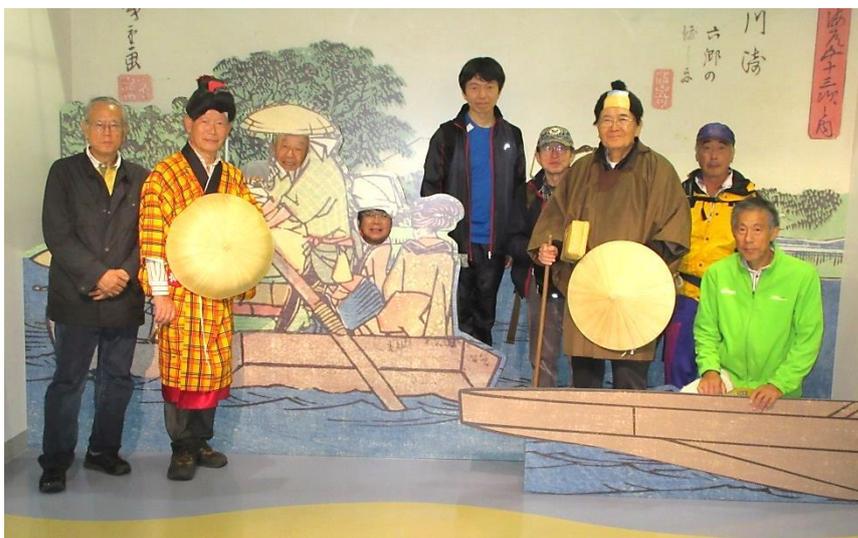
家康の六郷大橋の架橋から400年近くが経過し、その間色々なドラマが展開した。そして、かつて渡船場となっていた六郷の原風景は、数多くの浮世絵に貴重な記録として残されている

石が敷き詰められた「旧東海道」を川崎駅方向に歩き

「東海道かわさき宿交流館」に到着 14:50



神谷さん(男役)と伊藤(女役)が旅人衣装とかつらを被り、東海道を旅しています。「六郷の渡し」で記念集合写真



KWCでも田村さんが東海道五十三次企画され私も前半参加しました。

15:30「東海道かわさき宿交流館」を出る。



養老の滝グループで小生初体験

15:45「一軒め酒場」交流会を兼ねてアフター 14名参加



とにかく安い。ベトナム出身の美人店員さん、日本語がまだ未熟で間違いも有。2次会8名 今日土曜日街では演奏も



編集後記：神奈川ウォーキング協議会結成準備会で、3グループ第1回交流ウォーキング。溝口在住の小生にとっては、参加しやすく、大変助かりました。「川崎エコ暮らしみらい館」は日本の未来を背負う小中学生には楽しみながら地球温暖化対策を学習出来る良い所でした。小雨で期待した羽田空港や東京湾が撮れなかったのは残念でした。「旧東海道かわさき宿交流館」では、案内係の女性も親切で、神谷さんと旅人夫婦衣装を着せてもらい、記念写真まで撮って戴き恐縮に存じます。小雨模様でしたがアフター場所も新発見で交流出来ました。3グループ役員の皆さん企画、下見を含めご苦労様でした。結成に向けて頑張ってください。

いつものボケ防止用日記帳「メモと写真」です。誤記や失礼な記述があるかもしれませんが悪しからずお許しの程。説明文はHP他から引用しました。